


# ゼミ活動総括

細谷 裕一


- 
- ◆ ゼミとしてまず、イノベーションのジレンマと言う本と、問題発見能力を高める、及び社長の条件という文書を読み進めました。

飯箸先生が企業の社長であるという点から、経営学に興味のある学生が集まったと思います。

授業の内容は現在のベンチャー起業ブームなどによくある起業指南ではなく、企業の運営等に関する文章が多い内容になってます。


これらの内容は起業するか否かに限らず、個人の能力向上に非常に役立つものであったと思います。

それでは、まず前期にやった講義について紹介します。

- 
- ◆ **イノベーションのジレンマ 技術革新が巨大企業を滅ぼすとき** クレイトン・クリステンセン (著) を読み進めました。

企業が革新的技術に出会ったときに、業界トップの企業がイノベーションマネージメントに失敗し、業界シェアトップの座から落ちる例を表しています。

破壊的なイノベーションに直面した優良企業がそれまでの成功体験が足かせとなって追いつめられていく話が出ています。

- 
- ◆ 次に問題発見能力を高めるという文章について読み進めました。

<http://www.atmarket.co.jp/fbiz/cinvest/serial/expert/index.html>

秋池 治氏が書いたこの文章は、問題発見力という能力を高めることに視点を置いています。これは企業内及び顧客が何を求めているのか、何が問題なのかについての具体的な解決策 = ソリューションを提示する「情報エキスパート」について書かれています。

またこれらの能力を高めるために必要なスキルアップの方法にも書かれています。




- ◆ 社長の条件

この文章は飯箸先生が、自身のブログに書いた社長の条件の文章をまとめたものです。


<http://www.sciencehouse.jp/materials/blog1.pdf>

22章からなるこの文章はPDFで90ページにも及びます。これらの文章は企業運営、特に中小企業の社長に求められる条件が書いてあります。これらの内容は、起業することに終始する話とは違い、企業を長く存続させるということについて書いてあります。現場で学んだ現実的な話題が多く、理論で終始する書籍よりよっぽど役に立つと思われれます。

- 
- ◆ これらの内容を一人ひとり分担して要点をまとめた上で、読み進めました。これらを読んだ上で、サイエンスハウス社の新しいプロジェクトに提案をおこなってきたのは先ほどの発表のとおりです。

## 感想

- ◆ このゼミでのコラボレーション学習で、もっとも効果的だったのは問題発見能力だろうと思います。現実的なプロジェクトと言うことで幅広い視野と問題発見能力を要求されます。大学の授業内でこのような能力を育成することを期待することは難しいと思います。

- 
- ◆ しかしながら問題発見能力は人の下で指示されることに従ってはいは能力の難しいと思います。基本的なルールはあるものの、その他のSH側へのプランに関しては自由な提案が出来る今回の授業形式は、アカデミックな議論に終始する大学の授業とは一線を画しています。企業の営利活動と言うことまで踏み込んでプランを組み立てる授業形態により、非常に高い問題発見能力の訓練がゼミ生は出来たと自負しています。

(終わり)